

学級活動(2)指導案

4年1組28名

指導者 小峯 三朗

○ 本実践は、以下の検証を行うものである。

自分や学級の実態を振り返るための事前アンケートの活用や、みんなのために役に立つことの意義を考えさせる資料の提示、子ども同士によるよいところ探しの活動は、子どもが自己有用感を感じ、みんなのためにできることを自己決定する手立てとして有効であるか。

1 題材名 自分のよさ (学級活動(2)-ウ)

2 子どもの実態

題材に関わる子どもの実態は、次の通りである。(一部抜粋)

調査実施日：平成24年4月18日(水) 調査人数：27名(男子14名 女子13名) 複数回答可

○ 自分にはよいところがあると思いますか。

・ある 15名 ・ない 3名 ・分からない 9名

(自分のよいところはどんなところだと思いますか。) ・明るくて元気 ・やさしくすること
・親切にすること ・あいさつができること ・発表をいっぱいする。 ・友達がすぐできる。

○ 自分は、友達やみんなの役に立っていると思いますか。

・役に立っている 11名 ・役に立っていない 5名 ・分からない 11名

(どんなとき自分がみんなの役に立ったと思いますか。)

・友達に勉強を教えたとき ・困っている人を助けたとき ・忘れ物をした友達に貸したとき
・学級会でよい意見を言ったとき ・係活動をしたとき ・みんなを笑わせたとき
・鉄棒のやり方を友達に教えて、友達ができるようになったとき

本学級の子どもは、それぞれの体験活動から、得意なことや頑張っていることを自分のよさとして捉えたり、友達や周りの人との関わりの中で、役に立つことができた喜びや自己有用感を味わったりする子どももいる。しかし、アンケートの結果から、自分のよさに気付いていなかったり、自分のよさがみんなの役に立つことがどういうことなのか理解できていなかったりする子どももいる。これは、自分のよさや自分のよさが役に立っているということを、友達や周りの人との関わりを通して気付いたり、友達や周りの人から伝えられて気付いたりすることが少なく、実感していないからではないかと考えられる。

3 題材について

自分のよさを知るためには、自分自身と向き合い、自分のことを深く考え、自分自身を知らなければならない。自分のよさを自分で知ることは難しく、自分のよさを自分で気付くことができなかつたり、気付いても自信がもてなかつたりすることが多い。そのため、自分のよさに気付き、まわりの人の役に立つ自己有用感をあまり感じられずに生活しているのではないかと考えられる。そこで本題材では、自分のよさを友達や周りの人との関わりを通して気付いたり、友達や周りの人から伝えられて気付いたりすることで、自分のよさを更に伸ばしていこうとする意欲を高めさせたい。また、自分のよさを学級みんなのために役に立たせることの意義を考えさせたり、自分のよさを生かしながら、学級目標を達成するためにできることを自己決定し、実践したりすることで、自己有用感や自己効力感を味わわせることができるのではないかと考え、本題材を設定した。

4 指導に当たって

事前の活動では、子どもに友達のよいところに気付く視点をもたせ、友達のよいところを探そうとしたい。そのために、事前の活動で、友達のよいところを見付け、手紙に書く活動(ハッピーレターの活動)を行った。これは、友達一人一人のよいところについて、今までの生活を振り返り、その人のよいところを手紙に書き、交流する活動である。また、これまでの担任から見た子どものよいところを伝えることで、自分のよさについて更に自信がもてるようにしておく。本時では、自分のよさをみんなの役に立たせる意義について考えさせたい。そして、自分のよさを生かし、学級目標を具現化するために自分ができることを自己決定できるようにする。事後の活動では、自己決定したことが実践できているか、日記などで振り返らせ、自分のよさを更に伸ばそうとする意欲を高めることができるようにしたい。

5 評価規準

- 自分のよさに気付き、それを伸ばそうとしている。 【集団活動や生活への関心・意欲・態度】
- 自分のよさを生かし、みんなの役に立つことができる取組について考え、実践している。 【集団の一員としての思考・判断・実践】
- 自分のよさをみんなの役に立たせるとは、どういうことなのか理解している。 【集団活動や生活についての知識・理解】

6 活動の流れ

	期日	活動内容	教師の手立て	めざす子どもの姿と評価方法
事前	5/2	1 友達のよいところを見つけ、手紙に書く活動(ハッピーレターの活動)を行う。	○ 友達一人一人のよいところについて、今までの生活を振り返り、その人のよいところを手紙に書かせる。	思 友達のよいところを、今までの交友関係を振り返りながら考え、手紙を書いている。 〈手紙〉
本時	5/18	1 自分のよいところをみんなの役に立たせるということは、どのようなことか考える。 2 自分のよさを生かし、学級みんなの役に立つよさを知り、これから取り組むことを自己決定する。	○ 友達のよいところが、自分や周りの人の役に立った体験を想起させ、人のよいところがみんなのために役に立つということについて理解させる。 ○ 学級目標を達成するために、自分のよさを生かし、学級みんなの役に立つ意義を理解させることで、今後、自分が取り組むことを自己決定できるようにする。	知 自分のよいところやそのよさをみんなの役に立たせるとは、どういうことなのか理解している。 〈発言、ノート〉 思 自分のよさを生かし、みんなの役に立つ意義を知り、自分が取り組むことを考えている。 〈観察、ノート〉 関 自分のよさに気付き、それを伸ばそうとする意欲をもつことができている。 〈発言、ノート〉
事後	5/21～	1 自己決定したことを実践する。	○ 自己決定したことが実践できているかどうか、日記で振り返らせ、自分のよさを更に伸ばそうとする意欲を高めることができるようする。	思 自己決定したことを実践している。 〈行動、日記〉

7 本時の活動

(1) 目標

自分のよさに気付き、そのよさを更に伸ばすとともに、周囲の人のよさを認め、いたわりや思いやりの心をもって、互いに尊重し合うことができるようにする。

(2) 評価規準

自分のよさを生かし、みんなの役に立つことができる取組について考え、自己決定しようとしている。

【集団の一員としての思考・判断・実践】

(3) 指導に当たって

まず、みんなで決めた学級目標に目を向けさせ、学級目標を具現化するために自分ができていることについて想起させる。その際、学級目標の具現化をめざした子どもの姿を写真で示すことで、自分は学級みんなのために何かできていたのか振り返らせるようにする。また、自分のよいところがみんなの役に立っていないというアンケートの結果を発表し、「学級をよりよくするために、自分のよさを生かしながら、みんなのためにできることを決めよう。」という課題意識をもたせるようにする。

次に、学級目標である「教え合い・助け合い・競い合う仲間4の1」を達成するために、どのような行いや気持ちが望ましいかを考えさせる。そして、友達のよいところが自分の役に立ったことのある体験を思い出させたり、人の役に立てたと思えるアンケートの結果を提示したりすることで、みんなの役に立つことの意義について理解させるようにする。また、友達のお陰で、できるようになったことや友達の行いでうれしかったことをカードに書かせることで、友達のよいところに気付くことができるようにする。そして、カードを交換し、その時の思いや気持ちを口頭で伝え合うことで、自己有用感を味わわせたり、友達と心が通じ合う心地よさを感じさせたりする。さらに、学級目標を達成するために自分のよさを生かし、みんなのためにできることを考えたり、今後、取り組むことについて自己決定したりすることができるようにする。

最後に、互いのよさを知ったり認め合ったりする活動の心地よさを実感させるために、活動を通じた感想を交流させる。こうすることで、互いのよさを知ったり認め合ったりすることの意義を理解し、互いに尊重し合う気風を高めることができるのではないかと考えた。

(4) 本時の展開

時間	活動内容	予想される子どもの意識	○手立て □めざす子どもの姿
10分	1 学級目標を振り返り、自分はみんなのために何かできているか考える。 振り返る	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼくは、こんな学級にしたかったんだ。それで、ぼくは一体何ができていたのだろう。 ・わたしは、学級目標にあるように、みんなで競い合って友だちと高め合っているよ。 	○ 学級目標の具現化をめざした子どもの姿を写真や日記で示すことで、子どもに自分は何ができていたのか課題意識をもたせる。
	2 アンケートの結果から、自分はみんなのために役に立っているかについて振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のよいところ(キラリ)をみんなの役に立たせたいな。 ・もっともっと自分のよいところ(キラリ)を伸ばしたいな。 	○ 「自分は、友達やみんなの役に立っていると思いますか。」のアンケート結果を提示し、自分のよいところ(キラリ)をあまり生かせていないことに気付かせ、本時のめあてにつなげる。
	3 本時のめあてを確認する。		
	<p>学級をよりよくするために、自分のキラリを輝かせながら、みんなのためにできることを決めよう。</p>		
30分	4 学級目標を具現化する、三つのキーワード(教え合う・助け合う・競い合う)は、どうしたことなのか考える。 必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・教え合うとは、自分のできることを教えて、友達ができるようになることです。 ・助け合うとは、困っている友達に親切にすることです。 ・競い合うとは、ライバルと競い合ってお互い伸びていくことです。 	○ 「どんな学級にしたい」という子どもの願いを大切にし、学級目標を決定するまでの思いについて振り返らせる。
	5 自分のよいところ(キラリ)をみんなの役に立たせると、どんなよさがあるのか考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分もよくて相手もよいということ。 ・その人のおかげでできるようになったりよくなったりすること。 ・心が通じ合うこと。 	○ 友達のよいところ(キラリ)が、自分やまわりの人の役に立った体験を想起させ、人のよいところ(キラリ)がみんなのために役に立つことのよさについて理解させる。
	6 友達のお陰で、できるようになった体験や、友達の行いで、うれしかった体験をカードに書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなのためになること。 ・○○くんのお陰で、～ができるようになったんだよ。教えてくれてありがとう。 	○ 友達との関わりの中で、友達のお陰で、できるようになったことや、うれしかったことを想起させ、その時の気持ちをカードに書かせる。
	7 カードの交換を行い、双方の気持ちについて考える。 解決法	<ul style="list-style-type: none"> ・「大丈夫？」って声を掛けられた時、とってもうれしかった。 ・ぼくが、○○くんにしたことは、こんなによいことだったんだ。 ・あの時は、うれしかったな。ありがとう。 	○ カードを交換し、その時の思いや気持ちを口頭で伝え合うことで、自己有用感を味わわせたり、友達と心が通じ合う心地よさを感じさせたりする。
	8 学級目標を達成するために自分のよさを生かし、みんなのためにできることについて、自己決定をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・わたしは、～というよさを生かし、××のとき、○○をしています。 ・給食当番のとき、みんなのために働く気持ちを大切にしたい。 	○ 子どもに、選択できる場を示し、自分のよさ(キラリ)を生かし、みんなのためにできることを決定させる。 思 自分のよいところ(キラリ)に気が付き、それをみんなのためにどのように生かしていくのか考え、取り組むことを自己決定している。
5分	9 活動を通じた感想を交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ・友達にこんなに思われていたなんてうれしいな。 ・自分のよさを生かせるように、決めたことを実践していきたい。 ・○○さんのよいところは～いうことなんだな。ぼくも見習おう。 	○ 互いのよいところ(キラリ)を知ったり認め合ったりする活動の心地よさを実感させ、更に、互いによさ(キラリ)を伸ばしていける人間関係を築いていけるように助言する。